科目名	陸上特殊無線Ⅱ		担当講師	東峰 康二	
講師実務経験	映像制作会社 勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		講義
期 間	3期4期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間	90 分
期	修 得 目 標				
3期	国家資格 陸上特殊無線技士 2級を取得する為行う試験対策ゼミ。無線法規、無線工学の基礎知識を熟知し、過去問題から学び修得する。				
4期	国家試験の応用問題から問題の傾向を考え、国家試験合格を目指し修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月18日	-授業ガイダンス-定期試験の復習- 国家資格の試験方法及び学ぶ方法・進め方			
2	10月25日	基礎・法規、工学～過去問題① 法規01A/工学01A 法規01B/工学01B解答方法解説			
3	11月1日	基礎・法規、工学～過去問題② 法規02A/工学02A 法規02B/工学02B解答方法解説			
4	11月8日	基礎・法規、工学～過去問題③ 法規03A/工学03A 法規03B/工学03B解答方法解説			
5	11月15日	基礎・法規、工学～過去問題④ 法規04A/工学04A 法規04B/工学04B解答方法解説			
6	11月22日	基礎・法規、工学～過去問題⑤ 法規05A/工学05A 法規05B/工学05B解答方法解説			
7	11月29日	基礎・法規、工学～過去問題⑥ 法規06A/工学06A 法規06B/工学06B解答方法解説			
8	12月6日	基礎・法規、工学～過去問題⑦ 法規07A/工学07A 法規07B/工学07B 解答方法解説			
9	1月17日	基礎・法規、工学～過去問題⑧ 法規08A/工学08A 法規08B/工学08B 解答方法解説			
10	1月24日	基礎・法規、工学～過去問題⑨ 法規09A/工学09A 法規09B/工学09B 解答方法解説			
11	1月31日	基礎・法規、工学～過去問題⑩ 法規10A/工学10A 法規10B/工学10B 解答方法解説 デジタル変調／3級を含む空中線電力			
12	2月7日	試験直前試験対策及び模擬試験対策 解答方法解説 最終試験対策			
13	2月14日	国家試験解答(2022/2/12実施) 定期試験対策 免許申請及び資格使用の心得			
評価方法	定期試験点数、平常点±10点(出席率、授業態度・取組状況など) 評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	無線従事者養成課程標準教科書 法規／無線工学、プリント配布				
注意事項	26時間中8時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	就職ガイダンス		担当講師	一岡永	
講師実務経験	音響会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	1年A組、B組		授業形態 講義
期 間	3期・4期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間 45 分	
期	修 得 目 標				
3期	企業情報を収集し、就職計画を立てる。応募書類を理解し、受験への備えを修得する。				
4期	エントリーに向けた一連の流れを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月17日	就職用写真の撮影準備について/自己PR作成のポイント			
2	10月24日	求人検索方法、就職支援サイト利用方法について/志望動機作成のポイント			
3	10月31日	応募条件について考える/志望動機、自己PR作成①			
4	11月7日	志望動機、自己PR作成②			
5	11月14日	履歴書作成練習			
6	11月21日	エントリーシートの質問項目と解答例			
7	11月28日	応募書類について			
8	12月5日	進路について考える			
9	12月12日	就職希望調査書配布説明			
10	1月16日	履歴書作成練習			
11	1月23日	筆記試験対策(一般常識)/エントリーシート作成練習			
12	1月30日	筆記試験対策(SPI)/エントリーシート作成練習			
13	2月6日	面接対策			
14	2月13日	春休み中に出来る事/3月の求人公開に向けて			
評価方法	3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト	プリント配布				
注意事項	14時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	時事研究		担当講師	國本 昌秀	
講師実務経験	元HTB北海道テレビ勤務（記者・デスク、ディレクター、プロデューサーなど）				
対象学年	1 学年	対象専攻	1年A,B組		授業形態 講義
期 間	後期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間 45 分	
期	修 得 目 標				
3期	ニュース・時事問題を読み解くことで、日常生活の思考・行動への活用法を修得する。				
4期	ニュースを日常生活の思考・行動に活用し、成人としての視野を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月17日	授業ガイダンス 習得目標について			
2	10月24日	岸田政権就任1年			
3	10月31日	直近のニュースについて			
4	11月7日	直近のニュースについて			
5	11月14日	直近のニュースについて			
6	11月21日	直近のニュースについて			
7	11月28日	直近のニュースについて			
8	12月5日	2022年ニュース振り返り①			
9	12月12日	2022年ニュース振り返り②			
10	1月16日	2023年はどんな年			
11	1月23日	直近のニュースについて			
12	1月30日	直近のニュースについて			
13	2月6日	直近のニュースについて			
14	2月13日	講義振り返り			
評価方法	定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業でプリント配布				
注意事項	14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	ENG実習 I		担当講師	三浦 貴正	
講師実務経験	放送局勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態
期 間	3期・4期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
3期	カメラ機材の取り扱い・カメラワーク等の基本的撮影技術を修得する。				
4期	カメラワーク等の撮影技術を学び、将来のキャリアに役立つ基本的な技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月18日	授業ガイダンス・撮影取材の基礎鑑賞			
2	10月25日	撮影・取材の基礎・・・カメラ操作の基礎 ①			
3	11月1日	撮影・取材の基礎・・・カメラ操作の基礎 ②			
4	11月8日	撮影・取材の基礎・・・カメラ操作の基礎 ③			
5	11月15日	撮影・取材の基礎・・・カメラ操作の基礎 ④			
6	11月22日	撮影・取材の基礎・・・カメラ操作の基礎 ⑤			
7	11月29日	撮影実習（屋内外）① 撮影・プレビュー			
8	12月6日	撮影実習（屋内外）② 撮影・プレビュー			
9	12月13日	撮影実習（屋内外）③ 撮影・プレビュー			
10	1月17日	撮影実習（屋内外）④ 撮影・プレビュー			
11	1月24日	撮影実習（屋内外）⑤ 撮影・プレビュー			
12	1月31日	評価対象実技試験実施 ①			
13	2月7日	評価対象実技試験実施 ②			
14	2月14日	定期試験対策			
15					
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	必要に応じてその都度、参考資料を配布する。				
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	企画制作Ⅱ			担当講師	種田 俊二
講師実務経験	元放送局勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	1年ビジュアルクリエイト専攻	授業形態	座学
期 間	3期4期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期	修 得 目 標				
3期	番組の構成・台本の作り方を実践的に修得する①				
4期	番組の構成・台本の作り方を実践的に修得する②				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月18日	班ごとに分かれ役割分担～作品①の企画立案			
2	10月25日	作品①の構成・台本作成～台本完成			
3	11月1日	班内で役割分担変更～作品②の企画立案			
4	11月8日	作品②の構成・台本作成～台本完成			
5	11月15日	班を組み直して役割分担～作品③の企画立案			
6	11月22日	作品③の構成・台本作成～台本完成			
7	11月29日	班内で役割分担変更～作品④の企画立案			
8	12月6日	作品④の構成・台本作成～台本完成			
9	12月13日	班を組み直して役割分担～作品⑤の企画立案			
10	1月17日	作品⑤の構成・台本作成～台本完成			
11	1月24日	班を組み直して役割分担～作品⑥の企画立案			
12	1月31日	作品⑥の構成・台本作成～台本完成			
13	2月7日	試験対策			
14	2月14日	総復習、試験対策			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	モーショングラフィック		担当講師	水上 志乃/割出直矢	
講師実務経験	映像制作会社に6年勤務した後、フリーランスとして活動				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態 実習
期 間	3期・4期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間 135 分	
期	修 得 目 標				
3期	AfterEffectのプロジェクト新規作成から、テキストアニメーションまでを修得する。				
4期	AfterEffectの3DレイヤーからPremierとの連携方法を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月12日	授業ガイダンス AfterEffectsの概要 作品研究			
2	10月19日	キーフレームアニメーションについて			
3	10月26日	シェイプレイヤーについて			
4	11月2日	シェイプレイヤーについて2 マスク/合成機能について			
5	11月9日	パスアニメーションについて			
6	11月16日	テキストアニメーションについて1			
7	11月30日	標準Effectについて 課題制作の案を練る			
8	12月14日	自由課題制作			
9	1月18日	3Dレイヤーについて			
10	1月25日	タイムリマップ機能について			
11	2月1日	Premiereとの連携について			
12	2月8日	自由課題制作2-1			
13	2月15日	自由課題制作2-2			
14					
15					
評価方法	作品提出評価(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:C				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	無人航空機概論		担当講師	成田 泰士	
講師実務経験					
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	3期・4期	総授業回数	13 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
3期	ドローンの操縦に必要な知識(歴史、法律やルール、各種申請方法)や基礎技術(機構や基本操作)を修得する。				
4期	ドローンの操縦に必要な基本操作、応用操作を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月12日	座学:無人航空機概論			
2	10月19日	座学:航空法について①			
3	10月26日	座学:航空法について②			
4	11月2日	座学:航空法について③			
5	11月9日	座学:航空法について④			
6	11月16日	座学:小型無人機等飛行禁止法について			
7	11月30日	座学:航空法以外でドローンに関わる法律について①			
8	12月14日	座学:航空法以外でドローンに関わる法律について②			
9	1月18日	座学:航空法以外でドローンに関わる法律について③			
10	1月25日	座学:ドローンの構造・しくみについて①			
11	2月1日	座学:ドローンの構造・しくみについて②			
12	2月8日	座学:ドローンの操縦方法について			
13	2月15日	試験対策			
14					
15					
評価方法	定期試験点数(100%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
	成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	39時間中14時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	撮影実習Ⅱ		担当講師	田端 優一	
講師実務経験	放送局関連会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	3期・4期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
3期	番組制作に必要な撮影・収録の基本テクニックを修得する。				
4期	ディレクターの指揮に基づいて撮影・収録を進めていき番組制作の流れを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月13日	授業ガイダンス～企画制作Ⅱに沿った撮影機材の選定			
2	10月27日	ロケーション撮影及びスタジオ収録①			
3	11月17日	ロケーション撮影及びスタジオ収録②			
4	12月1日	ロケーション撮影及びスタジオ収録③			
5	1月19日	ロケーション撮影及びスタジオ収録④			
6	2月2日	ロケーション撮影及びスタジオ収録⑤			
7	2月16日	撮影実習Ⅱ 総まとめ講座～定期試験対策			
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	資料配付				
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	編集実習Ⅱ		担当講師	岡 宏樹	
講師実務経験	映像制作会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	3期・4期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
3期	映像作品を完成させるまでの一連の流れを修得する。				
4期	映像表現の実践的なテクニックを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月20日	授業ガイダンス 作品制作Ⅰ編集①(素材の取り込み、編集、カラーコレクション)			
2	11月10日	作品制作Ⅰ編集②(テロップ、MA、エンコード)			
3	11月24日	作品制作Ⅱ編集①(素材の取り込み、編集、カラーコレクション)			
4	12月15日	作品制作Ⅱ編集②(テロップ、MA、エンコード)			
5	01月26日	作品制作Ⅲ編集①(素材の取り込み、編集、カラーコレクション)			
6	02月09日	作品制作Ⅲ編集②(テロップ、MA、エンコード)			
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	36時間中13時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	MA実習 I		担当講師	田莉子 和之	
講師実務経験	音楽・番組制作会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト 専攻	授業形態	実習
期 間	3期・4期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	135 分
期	修 得 目 標				
3期	MAの概要を学習し、ビデオ制作における音声編集の基礎的な知識と技術を修得する。				
4期	ビデオ制作における音声編集の基礎的な知識と技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月14日	授業ガイダンス／MAの概要・基礎的な知識について			
2	10月21日	MA作業準備について			
3	10月28日	ナレーション・アフレコの収録について(1)			
4	11月4日	ナレーション・アフレコの収録 について(2)			
5	11月11日	ナレーション・アフレコの収録 について(3)			
6	11月18日	整音について(1)			
7	11月25日	音楽・効果音の仕込みについて(1)			
8	12月2日	音楽・効果音の仕込みについて(2)			
9	12月16日	音楽・効果音の仕込みについて(3)			
10	1月20日	整音について(2)			
11	1月27日	ミックスについて			
12	2月3日	実技習得度判定試験対策			
13	2月10日	実技習得度判定試験			
14	2月17日	定期試験対策 / まとめ			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 実技習得度評価時期・方法:B 4期・実技試験実施による評価				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	プリント配布				
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)				

科目名	スチール実習I		担当講師	高橋 吉之	
講師実務経験	カメラ修理会社、写真撮影および編集会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態
期 間	3期・4期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
3期	一眼レフカメラの基本操作を修得する。				
4期	撮影意図を反映させるための操作方法を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	10月14日	ガイダンス、写真に求められるもの、使用するカメラの基本操作方法			
2	10月21日	フルオート、オートでの撮影方法、露出補正、フォーカスの合わせ方			
3	10月28日	撮影実習①操作に慣れよう、屋外での撮影			
4	11月4日	絞り、シャッタースピードの効果と操作方法			
5	11月11日	撮影場面や、被写体ごとの撮影モードの使い分け			
6	11月18日	構図の種類、交換レンズの特徴と使い分け			
7	11月25日	撮影実習②屋内での撮影、構図にこだわった撮影～線を意識して			
8	12月2日	スチールカメラの歴史と構造、動画との関係について ライブ撮影、ステージ撮影について			
9	12月16日	これまでのまとめとレビュー			
10	1月20日	光源の種類とホワイトバランス			
11	1月27日	明るさやホワイトバランスの意識的なコントロールと効果			
12	2月3日	応用撮影②明るさやカラーにこだわった撮影			
13	2月10日	撮影画像の評価方法、セレクトとレビュー			
14	2月17日	復習、試験対策			
15					
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	プリント都度配布				
注意事項	42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				